

＜ 今日の説教のポイント 出エジプト記 15 章 22～27 節 ＞

荒野の旅の最初の試練。これからの旅への心構えが学べる出来事。

1 (22-23) 神様は何を考えておられるのか？ 人生に試練は付きもの。

葦の海の奇跡に大喜びして旅立ったのに、すぐに水無しの三日間、そして着いた所の水は飲めないなんて、神様ちょっとひどいと思います。しかし聖書の神様は恵みの神様です。ひどいことをされるはずはないと思ひ、恵みを読み取る方向でこの事実を考え直すのです。すると、こんなことが言えるのではないのでしょうか。人生は楽しいことばかりじゃない、そういう事実を教えてくれているんじゃないかと。すると、試練に会っても（遭っても、でなく）受けとめられるようになって行きます。

2 (24-25) 不平が聞かれた！？ 神様がして下さったことを忘れるな。

この後繰り返し出て来る「不平を言う」という単語が最初に出て来る所です。でも、民はすでにモーセに文句を言っています(14:11)。神様はその時もここでも民の不平に答えて下さいました。ということは、不平を何度でも言ったらいいということでしょうか。そう考えるのではなく、むしろ、どこかで不平を言うのをやめることを考えるべきなのです。「神様は必ず道を備えて下さる」と信じる者となって。

3 (25a) この奇跡の特徴は？ 木が用いられている。その意味は？

これはいつもの奇跡とは違います。自然界の木が与えられています。それに苦みを消す作用があったのでしょう。神様の奇跡というよりは、この世界に与えられているものを用いて改善できることを知らされたと言えます。何でも彼でも奇跡で考えるのではなく、与えられたこの世界のものを良い方向に用いて試練が乗り越えられることも多いのです。恵みの神様が造られたこの世界ですから、当然のことだとも言えます。

4 (25b-27) ここで経験したことが、恵みである十戒や律法の原点。

25 節後半はそこまでの経験のまとめの文章です。すなわち、後の完成形である十戒や律法は、ここでイスラエルの人々が経験したようなことが先にあって出来上がったものなのです。つまり、「救いの経験をしたからこそ、この神様に従って生きるのだ。それこそが命の道を行くことだから」、こう思って感謝と喜びのうちに守るのが十戒であり、律法なのです。26～27 節はそのことをよく示している神様の恵みの言葉であり、また最後に用意して下さっていた内容です。人生に試練は付きもの、でもこの神様を信頼して歩んで行けば大丈夫なのです！